～アイヌ政策～　荒井さとしは約束します

≪基本的な考え≫

昨年９月、「先住民族の権利に関する国連宣言」が採択された状況を踏まえて、
アイヌ民族を先住民族として認め、人権や経済・社会的権利を保障します。
また、本年７月洞爺湖サミットと同時開催された先住民族サミットに於いて、日本政府に対して
出された提言を尊重し、当事者の目線に立ってアイヌ民族に関する総合的施策を確立します。
伝統文化や言語、生活空間の再生事業等への支援策も急務です。

１．「先住民族に関する国連宣言」を尊重し、
日本政府として誠実に実行するよう私も全力を尽くします。

２．民族のアイデンティティの根幹は、言葉です。
アイヌ語ならびに文化を伝承するため、国の責任においてアイヌ語学校を
設立します。社会的経済的に弱い立場に置かれてきた歴史に配慮し、
アイヌ語を学びたい老若男女の就学を費用面においても保障します。
また生活基盤安定のための職業訓練支援、アイヌ文化伝承者としての生活
補償の道を開きます。
財源確保、さまざまな法基盤との整合性を図り、環境整備を進めます。

【荒井さとしとアイヌとの関わり】

■北海道庁勤務のとき／藤波孝生さんの言葉　（1986 年）
当時はまだ「北海道旧土人保護法」なる差別呼称の法律があり、また「日本は単一民族国家だ」と
という中曽根康弘元総理による問題発言もあった。
道庁勤務を通じて、アイヌの文化伝統を守るため「アイヌ新法」を作りたいと企画。
東京の藤波孝生元官房長官に陳情に行くと、その場で小渕恵三官房長官にアポを取りつけて頂
いた。藤波さんは第２次中曽根内閣の官房長官で、総理発言に心を痛めていた一人でした。
彼の発した言葉は今でも忘れられない。
「荒井さん、和人はアイヌの鎮魂の祭りをしなければなりませんね」
彼は和人のアイヌに対する強制移住などの抑圧の歴史を明確に認識していた。

■自社さ政権のとき（1997 年）
新党さきがけに所属しており、与党の一員として五十嵐広三元官房長官、池端清一国土庁長官と
共に「アイヌ新法」を取りまとめにこぎつける事ができました。
法案の代表質問に、アイヌの萱野茂参議院議員が登壇したのが印象的でした。

■YOSAKOI ソーランにアイヌが友情出演
2005 年から、YOSAKOI ソーラン祭りの羊ヶ丘会場の運営をサポートしています。
札幌国際大学観光学科の学生が中心となって企画・運営している会場です。
2008 年、初めての試みとしてアイヌの「札幌ウポポ保存会」が歌と踊りを披露。

最後には観客や YOSAKOI チームを巻き込んでのポロリムセ（大きな輪踊り）を行い、
会場は一体感に包まれました。

■先住民族サミット開催を応援（2008 年 7 月）
2008 年春、先住民族サミット「アイヌモシリ2008」の実行委員が事務所を訪れました。
7 月の北海道洞爺湖サミットに先立ち、アイヌが中心となって開催する先住民族サミットを応援して欲しいとの依頼。
アイヌに限らず、先住民族は自然を畏怖し、再生を心がけたライフスタイルを守り続けた。
環境サミットと言われる北海道洞爺湖サミットと同じ時期に開催するにふさわしい、もうひとつのサミットを成功に導きたいと願った。

写真：サミット３日目、札幌ピリカコタンでの成功を祈る
カムイノミ（神への祈り）に参加

先住民族サミット 4 日間のうち、札幌開催の 2 日間に参加。
これまで、どちらかというと隠れるようにして生きてきたアイヌが舞台の上で生き生きとしている。
その姿に感激した。

■そして、これから
しかし、それでもまだまだアイヌということを隠して生きている人がたくさんいると言う。
国会決議を採択しただけで満足してはいけない。これは初めの一歩にすぎない。
アイヌが誇りを持って堂々と生きられるように、もっと踏み込んだ政策が必要だと実感した。
また、世界の争いのほとんどが、チベット騒乱に見るように民族間の争いである。
多民族が言語や歴史文化の垣根を越えてどう理解しあうか。
アイヌ問題は、21 世紀の課題を内包している。